

令和元～3年度「学びの深化プロジェクト実施校」実績報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	綾部市立綾部中学校						校長名	森山 幹子	
研究教科・領域等	思考力に関わる評価研究								
研究主題	未来を切り拓く力の育成～思考力を高める単元の開発と授業づくり～								
研究の目的	<p>今年度の4月から全面実施された学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、育成を目指す資質・能力を「生きて働く『知識・技能』の習得」、「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」の3つの柱に整理をされた。</p> <p>今までの各種学力調査やテストにおいて、本校生徒の学力実態を分析してみると、基礎・基本は概ね習得しているものの、学んだことを活用して考えたり関連付けたりすることや、教科等を横断したり生活と関連させたりして考えること、考えたことを表現すること等に課題があることが見えてきた。</p> <p>そこで、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「思考力・判断力・表現力等」を育む1つの方法として、「パフォーマンス評価」を学ぶことから研究を始めることとした。生徒たちがパフォーマンス課題に取り組むことで、学んだ「知識・技能」を活用して思考・判断し、その表出として様々な形で表現する、こうした作業や経験を繰り返すことで、生徒の思考力の育成・向上に繋がる。さらにこのことを学び実践することで、我々教員の授業改善が推進されるとともに、学級集団の育成や生徒の人権意識の高揚等各分掌の取組や活動を充実させることにも繋がると考えた。教科を越えて、全教職員で研究に取り組み、推進することを目指した。</p>								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別	合 計	教職員数
学 級 数	6	6	6				2	20	64名
児 童 生 徒 数	170	167	179				9	525	※校長・教頭を含む

2 研究校の概要

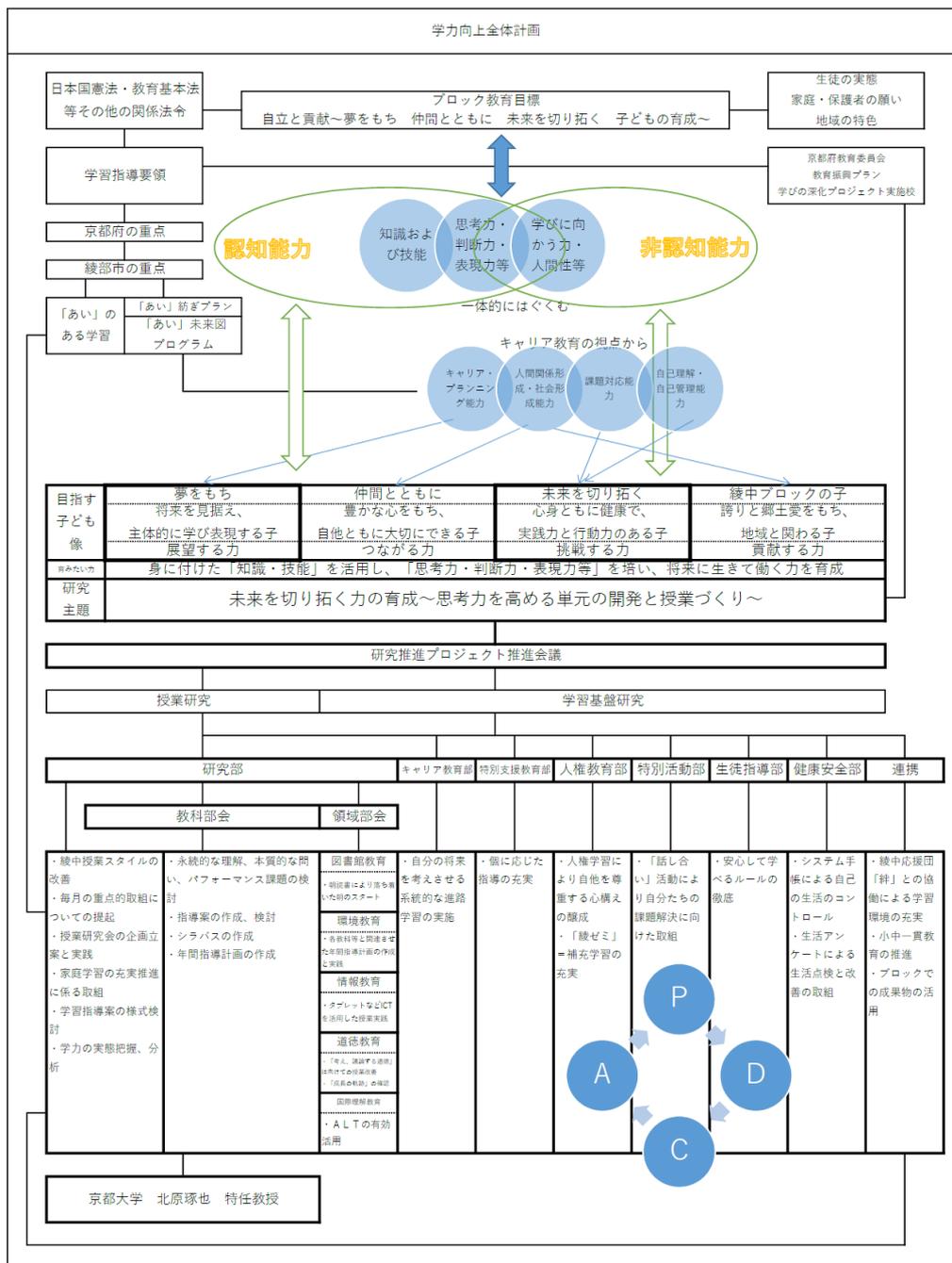
歩みながらであるが、次のような体制をつくり、研究を推進した。

授業については、研究部が中心となって、校内研修会で理論を学び、授業研究会を実施し、具体的な授業づくりを学ぶという実践を繰り返した。京都大学大学院教育研究科の特任教授である北原琢也先生に、度々来ていただき、校内研や授業研、さらには教科部会にも参加していただき、「パフォーマンス評価」についてだけでなく、学習指導要領の趣旨について、評価の在り方について、ルーブリックの作成等、多くのことを教えていただいた。その中で、逆向き設計の授業づくりや、単元や内容のまとめり全体で付けたい力を見通し指導計画を立てることの重要性等を学び、各教員が自分の授業に取り入れ、授業改善を行った。また、指導案を書く際には、単元のゴールや付けたい力、評価計画を明記する等自校のオリジナル指導案の様式を作成した。

非認知能力については、各分掌が研究主題を意識しながら、生徒の思考力の育成と向上を目指して、毎月の取組を提起し実践するという形で育成を図った。特に、健康安全部と研究部が協働して「システム手帳」を作成し、毎日の時間割とともに、健康観察や起床・就寝時刻、家庭学習の時間や内容等を記入させたことは、生徒に生活リズムを意識させ、家庭学習の充実につながったと考えられる。このように、研究を軸として、各部がそれぞれに取組を展開したことにより、生徒の学習基盤の構築に効果があったと考えている。

令和2～3年度にかけて、新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休校や教育活動の制限があったが、夏季休業を短縮したことや総合的な学習の時間の計画の見直し等により、教科の標準授業時間数を確保し、また、できることをできるように実践した。

中丹管内の小・中学校に案内を送付し、令和3年11月16日に研究発表会を本校にて開催し、国語・英語・保健体育の研究授業と研究報告を行った。校外から40名弱の参観者を得た。



23日(土) 大人部大会
東北GUVテスト
単元テスト(40~44)

健康チェック	25日(土)		26日(日)	
	健康状態	○	○	○
昨夜の就寝	22:50		23:00	
今朝の起床	7:00		6:30	
朝食	○		○	
体温	36.2℃		36.0℃	
1校時	英	GUVテスト	道	×
2校時	家	×	教	7-7
3校時	1休	3ヶ-3ヶ	1休	3ヶ-3ヶ
4校時	理	7-7	音	120-7
5校時	社	東北GUVテスト	国	7-7
6校時	回	7-7	理	単元テスト(10)
持ち物	有理7-7日社7-7		社7-7日各教科7-7	
宿題(7校時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理7-7(最終まで) ○ 音理7-7(16~19時まで) ○ 社7-7(東北) ○ 音7-7(最終まで) ○ 20分(理音最終まで) ○ 自主勉強(20分) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 7-7(各教科<10時前) ○ 道7-7(10時前) ○ 音7-7(最終まで) 	
自主学習の内容(8校時)	理科		漢字	
家庭学習予定時間	3時間		4時間	
就寝予定時刻	23:00		23:00	
起床予定時刻	7:00		6:00	
To-Do	<input checked="" type="checkbox"/> 7-7(理) <input checked="" type="checkbox"/> 7-7(音)(社)		<input checked="" type="checkbox"/> 7-7(音)(社) <input checked="" type="checkbox"/> 7-7(道)	



3 主な研究活動（時期や内容等）

時期	研究内容、研究方法、成果の公開等		
	授業研究	学習基盤の整備	研究発表会に向けて
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の学力実態 ・本校の研究 ・新学習指導要領について ○教科部会 <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・各部の取組内容の検討 ○研究部 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートの取組 ・学習サポートニュースによる啓発 ・システム手帳 	<ul style="list-style-type: none"> ○11月の発表会に向けての意識高揚 (以後、毎月の研究推進プロジェクト会議で進捗状況の確認)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会 <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや評価についての交流 		<ul style="list-style-type: none"> ○発表会当日の研究授業の教科、単元等確認と準備
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○事前研・教科部会【北原先生】 ○校内授業研究会(国・英・体育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいた実践 ・毎月の振り返りと翌月の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究発表会の概要計画と役割分担
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の実践交流 ・宿題の交流 ・中1生府学力診断テスト結果分析 		<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の指導案検討
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会①【北原先生】 <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックの作成について ○校内研修会② <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査やテスト、アンケートの分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の振り返りと2学期の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導案チェック ○研究紀要原稿作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○局訪問に向けての指導案の作成・点検 ○中丹教育局サポート訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・指導およびアドバイス 		<ul style="list-style-type: none"> ○案内発送
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○市訪問に向けての指導案の作成と点検 ○研究授業に向けての指導案のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいた実践 ・毎月の振り返りと次月の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者集約 ○研究紀要印刷
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○市教委計画訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成 ・指導およびアドバイス ○研究発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業と事後研 		<ul style="list-style-type: none"> ○研究会準備 ○研究発表会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会 <ul style="list-style-type: none"> ・2学期のまとめ ・中2生府学力診断テスト結果分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の総括と3学期の展望 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想意見の集約
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生京都府学力診断テスト分析結果の交流 ・今後の調査テストに向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいた実践 ・毎月の振り返りと次月の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の総括共有
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会に代えて校内研 <ul style="list-style-type: none"> ・研究についての振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・年間総括 	<ul style="list-style-type: none"> ○報告書提出 ○打ち合わせ ○交流会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめと次年度に向けて ・CRT結果分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌部会 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて 	

4 今年度の研究の成果と検証（児童生徒、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等）

研究とともに歩んだ中学3年生の姿として、各種学力調査・テストのデータから、学力が向上したという顕著な結果は現れていない。ただ、質的な変容として、非認知能力に係る生徒の様子・意識について次のようなことを成果として感じている。

○教職員の実感する生徒の変容

- ・各教科の振り返りやパフォーマンス課題等で相当な量を書いている。書くことは思考の表出であるので、生徒はかなり考え表現していると感じるとともに、少し難しい課題にも粘り強く取り組んでいる。
- ・単元末課題やルーブリックを提示することで、見通しを持って学習し、活動が活性化してきている。
- ・学習した内容を繋げて、課題に取り組もうとする姿が以前よりも増してきている。

○生徒の意識の変容

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査質問紙において、「9 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。」の問いに対して、京都府比105であった。（中1時府学力診断テストでは京都府比100）
- ・京都府中学校教育研究会のキャリア教育部会が毎年実施している「キャリア教育アンケート」について、特に「課題対応能力」に係る問いに対して、下のような結果であった。

		4 いつも している	3 どちらかと いえばして いる	2 どちらかと いえばして いない	1 ほとんどし ていない	
⑦	わからないことやもっと知りたいことがあるとき、資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしますか。（情報の理解・選択・処理等）	本校	46.8%	37.6%	13.9%	1.7%
		京都府	36.7%	41.7%	15.3%	6.4%
⑧	何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。（本質の理解・原因の追及・課題発見）	本校	39.3%	52.0%	6.4%	2.3%
		京都府	39.6%	42.7%	11.2%	6.5%
⑨	何かをするとき、計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。（計画立案、実行力、評価・改善）	本校	28.9%	48.0%	19.1%	4.0%
		京都府	27.0%	46.1%	20.8%	6.1%

- ・各教科において、全生徒を対象に「授業評価アンケート」を実施しているが、全項目について肯定的な回答が90%を超える。意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。

○研究に対する教師の意識の高揚により、様々な実践や授業改善が図られている。その中で、ねらいや目的を生徒と教師が共有することで、生徒の意識も高まり、生徒が成長していることを実感している。

5 今年度の課題

- 「パフォーマンス評価」の「本質的な問い」、「永続的理解」、適切な「パフォーマンス課題」「ルーブリック」については、十分に理解できたとは言えない。
→今後とも学習指導要領を読み込むことと、研修の充実を図っていきたい。
- 不登校やその傾向を示す生徒の増加、生徒の家庭状況の変化、学力の二極化、学習に対する意欲が乏しい生徒等、実態が変化している。
→生徒の実態を分析して、この研究での成果を継承しつつ、新たな研究主題を設定していきたい。

6 研究成果の活用について

○校内において

- ・研究により学んだことや成果と感じられることについて、「綾中授業スタイル」に反映させ、次年度の授業づくりの基礎資料とする。

○校外に向けて

- ・「研究紀要」、学校のホームページ、報告書等を通じて発信し、広く波及したいと考えている。